

今号の主な内容

【特集】水原市青少年育成財団の交流団 由布市訪問／相互交流 ……………	1,2
がんばっています！ 1/2成人式へ向けた授業の取り組み ……………	3
ゆふいんTOPIC 「第25回ゆふいんこども映画祭」……………	4
ゆふいん財団掲示板 ……………	4

【発行日】2014年2月2日
【発行】公益財団法人人材育成ゆふいん財団
【発行人】溝口薫平
【編集責任者】霜野圭一
【編集】人材育成ゆふいん財団企画委員会

住所／湯布院町川上2863
TEL／85-4748 FAX／85-4759
E-mail：info@yufuin-zaidan.jp
H.P：http://www.yufuin-zaidan.jp

【特集】水原市青少年育成財団の交流団 由布市訪問／相互交流



お互いの国・まちを行き交う国際交流事業・相互交流を行っている、水原市青少年育成財団が1月23日（木）～26日（日）の日程で由布市・湯布院町を訪れました。今回の訪問団は子ども13名と引率・関係者が5名。計18名の方々がお越し下さいました。

3泊4日の日程で、その内2泊は湯布院町内でのホームステイ。由布院地域と湯平地域に分かれ、全部で6つのホストファミリー宅で交流をしました。昨夏にゆふいん財団の使節団として水原市を訪問したメンバーが、ホームステイやおもてなしの中心となり、親善を深めながら相互訪問を実現することができました。まちづくりの講演会や湯布院中学校訪問、郷土料理づくりなど、訪問中の様々な交流プログラムの様子を特集します。

1月23日（木）：「水原市からゆふいんへ ～再会・歓迎の日～」

お昼の便で福岡空港に到着。飛行機の遅れもなく、無事に交流団が到着しました。そのまま初日の宿泊地、川西にある「ゆふの丘プラザ」へ。施設の使い方を聞き、ふとんの敷き方・たたみ方を聞きながら「日本方式」を学んでいきます。その後、歓迎会での出し物を一生懸命にリハーサルしていました。このような準備をしてくれた気持ちにとっても感激しました。

直孝教育長が歓迎のご挨拶。続いて水原市青少年育成財団のキム・チュンヨン理事長が歓迎に対する感謝の気持ちを述べ、歓迎会が始まりました。

各ホストファミリーのテーブルに分かれて楽しい会食です。ゆふいん財団が水原市を訪れた時も初日は歓迎会があり、まったく同じ形式で行われます。コミュニケーションがなかなかうまくいかなかったり、恥ずかしそうにするお互いの子どもたちの表情がありました。唯一男の子で参加のジョン・ドンウィ君は日本語もよく勉強していて、とても明るく、早速楽しそうに家族に



水原市の子どものK-POPダンス

溶け込んでいました。

歓迎のあいさつとして、湯布院中学校2年生の古長綺世加と吉村舞花が、日頃から練習している韓国語でメッセージを伝えました。

水原市青少年育成財団からは韓国・水原市の暮らしや文化について、写真を使いながら紹介。続いて、この日のために練習してきたK-POPダンスを披露。拍手に包まれながら、楽しい時間が流れました。



記念品の交換



ホストファミリー毎に楽しい会食

いよいよ歓迎会。水原市の子どもたちを受け入れるご家族や関係者の方々が集まりました。ゆふいん財団の溝口薫平理事長、由布市教育委員会の清永



韓国・水原市の暮らしや文化のご紹介

1月24日(金)「ゆふいんのまちづくりについて学び・交流する1日」

午前中は、まちづくり講演会の時間です。湯布院の地勢や風土、暮らしなど、まずは基本的なことを学んでいきます。"ゆふいんのまちづくり"と題した、ゆふいん財団の溝口薫平理事長の講演を聞きました。

次に湯布院中学校を訪問。ここでは学校見学と、昨夏水原市へ行った中学生メンバーと一緒に学校給食を食べるプログラムです。湯布院中学校へ到着して、橋本洋一校長先生に歓迎のご挨拶をいただきました。その後、賀來俊一教頭先生のご案内で校内を見学。図書館や音楽室、美術室、理科室などを



水原市の子ども達を感じた湯布院中学校の印象を話し合います

見学しました。そして、湯布院中学校の普通の授業風景を見学しました。スライドを使いながら英会話を実践する授業や科学の実験授業など、様々な授業形式を見学することができました。

水原市の子ども達の感想では「施設がとても充実していて素晴らしい」

「木を使った校舎の内装がきれい」

「受験を控えた中学3年生の授業は真剣な表情だった」という感想がありました。

そして、いよいよ給食の時間。搬入スペースから給食を運び、配膳をする準備段階から体験をしました。湯布院中学校の子どもたちも授業を終えて、自分の給食を教室から持ち出して集合しました。今日のメニューは「とり天・くろめのみそ汁・ご飯・ポンカン・牛乳」です。まるで今日の日程に合わせていたかのような“大分らしい給食”のメニューでした。

その後、湯布院のまち中を散策。健



大分らしい給食をみんなで味わいました

康温泉館から金鱗湖へ向かって川沿いの道を歩きます。途中、共同温泉を見学し、ほたる見橋を渡り、金鱗湖に到着、その後はグループ毎に分かれて湯の坪街道を散策しました。

事前にインターネットなどで情報を調べてきている様子で、買いたいものや食べたいものがあるお店にまっしぐら。何と！おみやげで人気なのは、意外にもドラッグストア。日本の湿布や医薬品がとても評判のようです。散策時間を終え、中学校を下校した湯布院の子どもたちと合流。ホームステイの各家庭に分かれていきました。

1月25日(土)「大分県をゆふいんの子ども達と一緒に訪れ、遊び、学ぶ1日」

3日目はAPU立命館アジア太平洋大学を見学し、城島遊園地で子どもたち同士が自主的に元気に遊び、自由に交流する一日です。

まずはAPUを訪問。APUの学生、通訳ボランティアのチェボンソクさんとホンスミンさんのご案内で、キャンパス見学です。日頃の授業の教室やサークル活動をする場所、食堂など、日本でも有数の国際的な大学のキャンパスライフについて知りました。

その後は城島遊園地に到着し、グループ行動。昼食後は様々な乗り物に乗りました。ほとんどが日本語の表示となっているため、みんなでたくさん湯布院の子どもたちが積極的に案内役をつとめます。楽しい交流 遊びました。すっかり仲の良い友達になりました



APUを見学し、グローバルなキャンパスライフのお話を聞きました



1月26日(日)「ゆふいんから水原市へ～お別れの日、また会う日まで～」



共同作業で郷土料理づくり。作った料理をみんなで美味しく食べました

いよいよ最終日です。最後の交流プログラムは、湯布院公民館の調理室での大分の郷土料理・団子汁づくりです。まずは、野菜を切るところから始まります。そして団子をのぼしていきます。上手にできた人、できなかった人、それぞれ個性的な団子をつくりました。そして、おにぎりを一緒に握ります。三角に握るのが標準的ですが、ハートや丸の形など好きな形に握る子どもたちもいます。楽しい共同作業の現場でした。

楽しい交流プログラムがすべて終了しました。初日から最終日まで晴天に恵まれ、楽しい日々を過ごすことができました。たくさんのお見送りの中、水原市青少年育成財団の子どもたちが韓国・水原市へ帰っていきました。またお会いしましょう！

最後に由布岳をバックに記念写真。とっても良い笑顔がそろいました



自分の将来の夢を広げること、仕事や職業観をつくることを目的に、由布市立由布院小学校では総合的な学習「将来の夢を広げよう」を実施しています。対象は、2月に1/2成人式を迎える小学4年生です（成人年齢20歳の1/2、10歳を迎える年齢）。ゆふいん財団では平成23年度からこの取り組みのサポートとして市民講師の派遣・調整、

授業運営のサポートを実施しています。

事前に行った生徒に対するアンケートでは、将来なりたい職業として「保育士」「パティシエ（菓子職人）」「看護師」「デザイナー」「大工」などが上位にランクイン。今回の授業では、その中でも「保育士」「パティシエ」の職業についての市民講師派遣を行いました。

「保育士」：聖愛保育園 利光恵子さん（1月20日（月））

最初に出てきたスライドの写真は、今回の小学4年生の中の卒園者の保育園時代の写真です。「○○○くんだ!」「○○○ちゃんだ!」という声が聞こえました。生徒たちが小学校に上がる前に（就学前）、保育・教育をする職業が保育士だということを理解していきます。続いて、保育園の1日を見ていきます。時間の経過ごとに、それぞれ行う仕事について、自分たちの経験も思い出しながら理解していきます。また、園児の栄養や食育をサポートする専門の栄養士についても、その役割や職業観について教わりました。

職業観というお話の延長で、「尊敬される、人の役に立つ、命を救う」

という点でアメリカ人気NO.1の職業である消防士について、またサッカーの本田圭佑選手の努力し続けることの大切さについてもお話を聞くことができました。

最後に「一人一人得意なことを持つことが大切で、それを自信につなげていってほしい」とアドバイス。子どもたちの得意自慢として「1人で料理ができる」「本を30冊読む」「ピアノを弾ける」などたくさんの特技が出てきました。「保育士も資格を取ることがまず重要。その資格を取るためには、勉強と自分の特技を活かすことが大切になる」ということを知り、とても充実した授業となりました。



「パティシエ」：nico ドーナツ 高倉美樹さん（1月28日（火））



最初に、自分が今の仕事をするようになった動機や経緯についてのお話がありました。「子どもの頃、お菓子づくりが好きになり、エクレアやケーキ、マシュマロを作って、家族や友達にふるまった。今振り返ってみたら、それがドーナツをつくっている"きっかけ"となったのかもしれない」。はじめは雑貨が好きで、雑貨販売やカフェ運営のお仕事に就かっていたそうです。そしてやがて自分の店を持ち、そこで自分の子どもの頃に思い描いていたお菓子づくり、ドーナツづくりを始めたというお話を聞きました。

「かつて、お母さんに作ってもらったように、手づくりでおいしいドーナツを食べてもらいたかった」という思いがお店づくりのこだわりとなっ

たそうです。大豆から作り出すドーナツの製法について、鮮やかなデコレーションやドーナツのバリエーションについてご紹介いただきました。

そして、いざ実践。調理室へ移動し、実際にドーナツづくりを体験します。プレーンドーナツに様々な種類のチョコをつけ、その上からデコレーション。顔の形やウサギの形など、みんな個性豊かなドーナツが出来上がりました。「家に持って帰って、家族に食べさせてあげたい!」突然の生徒たちからの提案。この「食べさせたい!」という気持ちが今回の授業の大切なテーマでした。ドーナツを味わい、作る喜びや食べる楽しさを感じました。作る人の想いで仕事が成り立っていることを理解することができた授業となりました。

ゆふいんTOPIC 「第25回ゆふいん子ども映画祭」／3月1日(土)開催



パリ猫ディノの夜

「第25回ゆふいん子ども映画祭」(主催：由布市教育委員会／ゆふいん子ども映画祭実行委員会)が3月1日(土)に開催されます。「こどももおとなも楽しめる映画祭!」。今回のゆふいん子ども映画祭の夜の部では、大分未公開の「パリ猫ディノの夜」が上映され、大人の方も必見です。小さなお子さんでも、大人でも十分に楽しめる作品がそろっています。子どもたち、大人に見てほしい選りすぐりの映画を一挙公開。お友だちや親子連れ、大人同士で、映画祭にぜひお越しください。

□ 問合せ先：湯布院公民館

電話／0977-84-2604

♪上映プログラム(予定)♪

午前	10:00~10:26	「かぐや姫」
	10:26~10:37	「ジャータカものがたり きんいろのしか」
	10:50~11:10	「みにくいあひるの子」
	11:10~11:28	「マッチ売りの少女」
午後	11:28~11:36	「月夜とめがね」
	13:00~14:57	「ひまわりと子犬の7日間」
夜	15:10~17:10	「おおかみこどもの雨と雪」
	19:00~20:10	「パリ猫ディノの夜」

♪鑑賞料金♪

子どもフリーパス券(市内小・中学生)(すべて鑑賞可)	500円
大人フリーパス券(すべて鑑賞可)	1,200円
小・中学生1回券	300円
大人(高校生以上)1回券	600円(当日券 800円)
大人2枚綴り券	1,000円(当日券1,200円)

☆幼稚園児以下は無料です。

☆午前中の5作品はチケット1枚ですべてご覧いただけます。

☆前売り券は、湯布院公民館・庄内公民館・挾間公民館で販売します。つり銭の無いようにご協力をお願いします。

☆前日までに電話予約の方も前売り券料金になります。

INFORMATION

人材育成ゆふいん財団 掲示板

(1) 一般寄附金としてご寄付をいただきました。

・山崎静子さま(川南)より(香典返しとして)

100,000円

温かいご厚意ありがとうございました。公益目的事業1、2の推進、充実に有意義に活用させていただきます。

公益目的事業1

市民の0歳から100歳までの学びを奨励、援助する事業

公益目的事業2

市民の実践活動の促進を援助する事業

編集後記

今年はソチで行われる冬季オリンピックやブラジルで行われるサッカーワールドカップなどスポーツの祭典が目白押しで、今からとても楽しみです。そしてスポーツ界では、サッカー選手の本田圭佑さんがイタリアの名門ACミランに移籍して話題となりました。「有言実行!」「結果を出す!」という部分で、子どもたちにとっても憧れとなりやすいのかな?という個人的な印象を持ちます。しかし、一方で本田選手が様々な挫折を乗り越えた経験やしつかりとした準備をする習慣づくりをしていること、海外での会話力・コミュニケーション力の向上など、努力を怠らないという姿勢にも着目してほしいと感じます。

スポーツ選手に限らず、一般の企業や個人の職業においても、活躍する人の情報や考え方、ポリシーなどを容易に知ることができる時代になってきました。情報化とグローバル化が進み、インターネットなどで、個人の頑張りや暮らし、経験を垣間見ることができるようになりました。ということは、益々そうした良い教材を得ながら、自分自身の育成や自己研さんに努力できる時代になってきたのではないかと思います。

今回特集した水原市青少年育成財団や1/2成人式・総合学習授業は、子ども達にとってとても刺激的で良い経験になったと思います。自分が成長するためにはこうした「動機づけ」が何よりも活力・パワーの源になります。こうした個々の「動機づけ」となる機会づくりに今後も取り組んでいきたいと思ひます。

(事務局・大澤直彦)

みらいしんきんは人材育成ゆふいん財団の市民の実践活動への情報・ネットワーク事業を応援します



みらい信用金庫

URL <http://www.oitamirai.co.jp/>